

# 同志を偲ぶ



# はぐるま

平成29年

10月31日

永期に渡り  
病氣治療を  
頑張つて

こられた、

第2作業所

責任者

蛭海 涼さんが逝去されました。

身近で彼の生きざまを見ながら  
ともに働いてきた、職員一同、  
突然身近な責任者を失った

利用者さん達（以後仲間と表記）

はぐるまのご家族たちは、今も尚  
彼の残した精神と、彼の作った  
数々の品に囲まれて、存在を  
身近に感じながら時を過ごして  
います。

関係者一同 心よりご冥福を

お祈り申し上げます。

蛭海 涼さんへ

第2作業所職員 岩田 かつの

12年前 あおばホームの求人面接。がっちり  
した体格にヒゲが印象的。場所を勘違いし  
大慌ての到着だった。ハンカチで汗を抑えな  
がらの面談。そんな強面なのに、何故か誠  
実さを強く感じたのは、私だけではなかつた  
と思う。はぐるま入職。ホームから作業所  
花ハウスの営業と、長い時間共に歩んできま  
した。優しさ、ユーモア、厳しさ、強さそし  
て弱さ、様々な姿に触れる度、共感・感動  
喜び・笑いの毎日でした。

作業所責任者を交代してからのここ数年  
は、強い前進力に驚かされ、そのサポートに  
気が抜けない日々でした。目標に向かって妥  
協せず、こだわりを形にしていく姿にウット  
リと仰ぎ見る私でした。

急に旅立ってしまったから「やりきれなかつ  
た事」皆で頑張つてやってみます。ダメ出しし  
てもいいですけど、一生懸命やるから見守っ  
ていて欲しい。たくさんの「ありがとう」  
届きましたか！ 届いていますか！

No.102

2017年12月29日

社会福祉法人  
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区  
菅馬場 1-18-17  
TEL 044-946-1308

はぐるま仲間自治会 会長の 長原です。

蛭海さんとの思い出をお話しします。今年の登山が  
一番の思い出です。私たちのグループは、足の弱い仲  
間のグループなので、山道でなく平坦な車道をいく予  
定でした。しかし前の日に蛭海さんと話し合つて、山  
道に挑戦することに決めました

「危ない所に連れて行って」と文句を言われても  
「僕が責任を持つ」と言ってくれました。

当日は天気も良く、全員が山に登ることができまし  
た。私が蛭海さんから学んだことは、「あきらめなけ  
れば、まだまだできるんだ」ということを教えてくれ  
ました。ありがとうございました。

長い間、10年以上蛭海さんと「花ハウス」で頑張つ  
ていた 山田 俊輔と申します。

蛭海さんが言っていた事は、「ハーブソーセージを売って  
200万円以上稼ぎ、移動販売車を作って稼ぎ、仲間の  
工賃をたくさん稼ぐ」と言っていました。もっと一緒に頑  
張りたかったのに、残念です。

これからは私たちが引き継いで、頑張ります。  
ですから安心してください。頑張ります。  
安らかに眠りください。

※11月7日 お通夜でご家族に伝えた内容です

## パンのおはなし

### 昔むかしの話です



今から50年前 某産院で、男の子(Hさん)と女の子(Kさん)が生まれました。男の子のお母さんのお乳があまり出なかったため、女の子のお母さんからお乳をもらいました。

十数年が過ぎ、Kさんは養護学校高等部を卒業し、開所間もない「はぐるま共同作業所」に入所しました。この時期、現在のはぐるまの自治会長をしている長原 綾さんも入所。

はぐるままで、自主製品のふきんを地域に出して販売する活動が始まったころ、登戸の「伊勢屋」というお肉屋さん、販売に伺いました。もちろん2人の女性も参加。

なんと！Hさん(畑さん)は伊勢屋さんの息子さんでした。そんな出会いから、毎年販売でお世話になり、お店には募金箱を置いていただきました。お客さんが釣銭を入れていただき、満杯になったら、はぐるまに寄付を届けてくださっています。それから30余年、現在に至るまで、このような関係が続いています。

この話をして下さったのは、長原さんのお母様、昔から伊勢屋さんの「レバーフライ」の

ファンで、よくお店に買いに行ったそうです。が登戸の区画整理で、伊勢屋さんのお店が、移転してしまい、ご無沙汰していました。

その「レバーフライ」が、はぐるま共同作業所の焼くパンに挟まって、調理パンとして店頭に出ているではありませんか!!

### 不思議なめぐり合わせが今

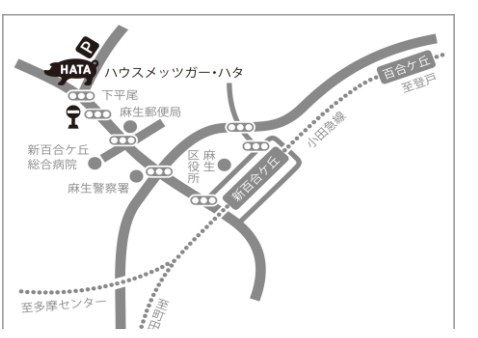
今から2年前、伊勢屋の畑さんが、第1作業所を訪問してこられました。ブタさんの貯金箱にいっぱい小銭が入ったものを手渡してくれました。これもやはりお店に置いてお客さんから集めてもらったものでした。そして、「実は……」と言って切り出されたのが、登戸駅周辺の開発に伴い、新百合ヶ丘に移転されるというお話でした。離れてしまうことに一抹の寂しさを覚えながら、その場はお別れをし、後日貯金箱を返しに新しいお店をたずねました。

いわゆる肉屋さんとは一線を画した、おしゃれな店構え、シンボルのブタさんのフィギュアが出迎えてくれます。しかもひっきりなしにお客さんが訪れる人気店でした。いつか仲間と来れるといいなあと思いつながらお店を後にしました。

そしてまた月日が流れ現在。パン作りに苦心していますが、何とかシンプルなおテーブルパンと塩パンは仲間で作れるようにと励んでいます。

す。そしてそのパンで、何とか品種をふやせないかと思いつ、「あ！」と頭に浮かんだのが、畑さんのお店でした。

事情を説明し、何とかお店で売っているお肉の総菜をパンに使わせていただけませんかお願いをしました。すると、「皆さんの売り上げに貢献できるなら何なりと使ってください！」と快諾。しかも、わざわざはぐるまのパンに合わせた大きさに特注で作ってくれ、価格も特別に……。いろんな商品のアドバイスをいただいたり、厨房製品の業者に口をきいてくれたりと、本当にお世話になっています。噂のレバーフライ、和牛100%のメンチカツ、本場ドイツ仕込みのハムカツをそれぞれサンドして毎週水曜日にお店へ足を運んでみてください。



おしゃれなお肉屋さん！ハタさんのお店の前で

## 食事提供加算の継続が決定!

「食事提供加算?」聞きなれない言葉ですが、同加算は作業所などの日中系事業所の利用者に対し、調理して食事を提供する場合の人件費分を算定し、支払われる報酬のことを言います。

はぐるまの会の作業所で提供をされている昼食もこれに該当し、仲間たちの場合、昼食については食材料費のみの負担で済んでいるため、質の高い食事を安価に安心して食べる事ができています。

これまで厚生労働省は、障害者自立支援法施行時から利用者負担の軽減を目的として延長を重ねてきた食事提供加算を、施行から10年たったことなどを踏まえ廃止に踏み切る意向でしたが、障害関係団体などからの継続を求める強い反対意見などを考慮し、「一律に加算をなくすのは無理ではないか」とする結論に至り、同加算の加算額や対象者について、現行のまま延長されることとなりました。

今回、全国の仲間たちの強い反対意見が認められたとはいえ、次回の改定時には食事提供

の実態を調査した上で改めて検討するとの回答でしたので、食事提供加算に限らず、仲間たちが健康的で質の高い暮らしを続けていくための運動を全国の仲間たちと継続していきたいと思えます。

## 伝説のレシピの復活です!

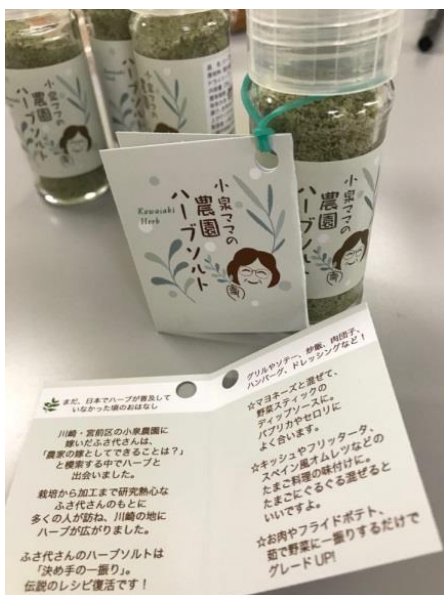
はぐるまの会が早野の地にご縁をいただきハーブの栽培をはじめた7年前、一番最初にご指導をいただいた小泉農園の小泉ふさ代さんが手がけたハーブソルトを地域の農家仲間や市民団体との連携で復活をすることが決定をいたしました。

今回のプロジェクトは、はぐるまの仲間たちの良き理解者・応援団である小泉農園の小泉博司さんから「おふくろのハーブレシピ(商品)をはぐるまの仲間たちのハーブを使用して復活させてくれないか?」との相談を受けるところからはじまります。

そこで、地域で農家と繋がりのある方々が集い「小泉ママの伝説のレシピ」を復活させたのが、ご紹介をさせていただく「小泉ママの農園ハーブソルト」となります。名前こそ、はぐるまと付いてはいませんが、今回製造を

した300本に関しては約9割が仲間たちと育てたハーブを使用しています。来年からは小泉農園の加工場にも仲間たちが何い栽培から商品化までを地域のみならず一緒にコラボする企画ですので、楽しみにお待ちください!

現在、小さなお店と第2はぐるま共同作業所にて本数限定で取り扱っておりますので、「お料理の決め手の一振り!」にいかがでしょうか?



7種の川崎産ハーブを使用した農園ハーブソルト



## 5回目の収穫祭

今年も青空の下、仲間たちの太鼓演奏やダンス、民謡などのステージパフォーマンスと大人気企画のサツマイモ掘り&宝探し等で終日大にぎわいとなりました！

今年で、5回目を迎えた収穫祭では、これまでの集大成として：

- ① 仲間たちの暮らしている地域の方たちとの交流を目的としたお祭りであること
- ② 仲間たちと子ども達からお年寄りまでの誰もが、安心して楽しめるお祭りであること
- ③ 仲間たちが主人公となり、地域の方々と一緒に楽しめるお祭りであること

以上の目標を立て、大イベントを成功させるのが目標ではなく、あくまでも仲間たちの暮らす地域の方々との交流を目指しました。

広報に関しては、自治会回覧と仲間たちと歩ける範囲でのチラシ配り（ポステイング）に限定をしましたので、昨年よりお客さんの数も減ってしまったのでは？と心配していましたが、当日は700名を超える方々にご来場いただき大にぎわいとなりました。

サツマイモ掘りや野菜の収穫体験に大興奮の親子や地域の子供たちに熱心に竹細工のコツ

を教えるベテランのお父さん達：

毎年、本当に続けてきて良かったな〜と想うのは、普段お会いする機会の少ない、近隣の若いご夫婦と子ども達の笑顔&歓声で会場が一杯になることです。

関係者だけではなく、来場者の7割〜8割が近隣住民となるこの理想的な光景を実現してくれているのは、まさしく地域の方々です。

東京新聞にも掲載をされたこの応援団についてご紹介をさせていただきます。



来場者に一番人気だった野菜の直売所で活躍をしてくれているのは、我らが「はぐるま稗原

農園サポーターズ」、会場全体の素晴らしい装飾を担当してくれたのが、地域連絡会の若いママさんグループ、ステージの設営から解体までを手掛けてくださった地元の青年会、農園コンシェルジュとステージ進行を担当してくれた田園調布学園の学生たち、等々：

当初、農園のオーナー、農家仲間とシェフ、

ファミーユの会（家族会）の有志ではじまった収穫祭が「今年も文化の日だよ〜！毎年、楽しみにしているよ！」と年間を通して声を掛けられるまでの認知度となり、少しずつではありませんが、運営の方も上達をさせていただきました。

まだまだ課題や反省点が山積をしておりますが、はぐるまの会らしく「地域の皆さんと作る共生社会」の一助となれることを夢見て、仲間たちとご近所さんが主人公となれる交流イベントとして継続していきたいと思えます。

ご支援ご協力、ご来場をいただきました皆様、来年の収穫祭でまたお会いしましょう！

ご寄附をいただきました

ご支援ありがとうございます

あさお市実行委員会 様

匿名希望 様